



# 私のおすすめの一冊

近藤 武

(松本歯科大学名誉教授)

著者は、学生時代に大学新聞部、学生会、無歯科医村活動と絶えず社会との接点を求め活動していました。卒業後は東北大医学部、同大歯学部新設時に在職し広く臨床経験をつまれました。その後、山形を経て都内練馬区で開業され現在に至っています。

この度「歯科医療の現在と血脇守之助」を卜梓されました。内容は学生時代に調べた血脇氏の歯科医学への情熱と、これまで多くの新聞・雑誌に寄稿されてきた歯科医療への思いからなっています。ここでは後編の歯科医療につ

いて、著者の臨床経験から得られた結論を基に述べることにします。

歯科疾患と治療内容(p.123)では、むし歯↓歯髄炎↓歯根膜炎と歯周病を抜歯(異物として排除)までの流れの中で捉えています。これに対処する歯周治療と歯内療法は、歯科医の技

り、誰もが容易に作る事ができなくなり、技能的にますます専門化されつつあります。その結果、高度の技能を要する歯科医療となり、治療費の驚異的な高額化を招き、社会化が困難となり国民医療の原則に反するものとなっております。

象であるため、予防はなかなかなじみません。そのためむし歯、歯周病になる直前の口腔環境を当該疾病症候群として、医学的検査による客観的な数値で捉え、保険に導入する必要があります。著者はこのように予防を中心とした、歯科医療を出発点として考えています。

## 新たな視点から考える歯科医療の未来

これまでに  
も日本の歯科  
医療はこうあ  
います。

量が試されるものです。そして同じ病名でも、治療の難易度が大きく異なる場合があり、これらの事情が歯科治療を難しく、患者に分かりにくくしています。しかし、現在行われている歯科医療の修復、補綴は、進歩すればするほど複雑化の一途をたど

この現状を改善するためには、新しい歯科医療は修復、補綴中心から予防中心に方向転換をする必要があるのは明らかです。そのためには、歯科疾患がむし歯としての実質欠損の起こる直前の、また歯周病の歯槽骨吸収の起る直前の、非生理的口腔環境を病的状態としての確に把握する必要があります。

しかし、わが国の保険制度は疾病対応。す。歯科医療を考える上で貴重な一冊です。



安藤三男 著 / 四六判 / 226 ページ / 1,200 円 (税別) / 三栄会 出版部 (03-3923-6500)

は税別)

300円

200円

500円

11

200円

500円

し

200円

300円

400円

700円

200円

監訳

200円

200円

師が

200円

200円